

動物のいたみ研究会に寄せられた飼主の声 「この薬飲ませてもいいの？」

山下 和人¹⁾
Kazuto YAMASHITA

協賛：動物のいたみ研究会

はじめに

わが国の獣医療において、飼主からインフォームドコンセントを得る重要性が説かれるようになって久しい。しかしながら、動物病院のステークホルダーでもある飼主に対して、動物病院から飼主に提供される情報量は充分とは言えず、動物用医薬品を製造販売する製薬会社の窓口には鎮痛薬の使用に関する問い合わせが寄せられている。今回のランチョンセミナーでは、動物のいたみ研究会の会員企業に寄せられた飼主からの問い合わせ事例を紹介し、飼主が疑問に感じていることを確認したい。

1. 投与期間に関する問い合わせ

鎮痛薬の投与期間に関しては、以下のような問い合わせが寄せられていた。

- ・鎮痛剤はいつまで服用するのか？
- ・足をびっこひくようになったので、動物病院で診てもらったら膝が悪いと言われた。痛み止めを7日分出されたが、3日目ですべて歩けるようになった。それでも7日間続けないといけなのか？その理由はなぜか？
- ・非ステロイド系抗炎症薬 (NSAIDs) を長期投与してもよいのか？
- ・痛みが引いたら(跛行しなくなったら) 投薬をやめて良いか。仮に投薬を止めた場合、痛みが再度出た時にまた投薬すれば良いのか？
- ・痛みが治まってきたようだが、先生の指導通りに痛み止めが無くなるまで飲ませた方がよいのか？

2. 副作用に関する問い合わせ

鎮痛薬の副作用に関しては、以下のような問い合わせが寄せられていた。

- ・鎮痛薬はどんな副作用があるのか？
- ・鎮痛薬は胃潰瘍になると聞いたが、そうなのか？
- ・鎮痛薬を使い続けると肝臓が悪くなるのか？
- ・鎮痛薬を使い続けると腎臓が悪くなるのか？
- ・鎮痛剤の長期服用で副作用が心配である。
- ・下痢・血便をするかもしれないと先生から言われたので不安であまり鎮痛薬をあげたくない(下痢したらかわいそう)。痛みがなさそうであればやめても良いか？また、実際に下痢・血便が出たらどうしたら良いのか？
- ・食欲がなくなるかもしれないと先生から言われたが、食欲がなくなった場合どうしたら良いのか？
- ・ネットで検索してNSAIDsの副作用が心配になった。大丈夫な薬なのか？
- ・急に足を痛がるようになったので動物病院へ行ったら、注射の痛み止めを打たれた。併せて痛み止めの飲み薬も処方されたが、注射の薬と違う名前のものであった。このまま飲ませて良いのか？

3. 薬の情報に関するもの

薬の情報に関しては、以下のような問い合わせが寄せられていた。

- ・今使用しているNSAIDsと他のNSAIDsの作用、副作用、長期使用データについて知りたい。
- ・妊娠および授乳中の動物に使用しても良いか？

¹⁾ 酪農学園大学獣医学群獣医学類伴侶動物医療学分野：〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582

- ・間違えて過剰投与してしまったがどうすれば良いか？
- ・〇kg未満の動物に対して投与しても大丈夫か？
- ・農水HPでNSAIDsでは自分の愛犬の体重以下の犬には投与しないこととなっているが、錠剤の半量で処方されたが大丈夫か？
- ・痛み止めと言われ処方されたが、何の製品か分からない。ネットで調べて(写真から)御社の薬だと思い連絡した。薬の情報を教えて欲しい。
- ・良くなってきているのに、薬は減らないのか？前回と同じ薬で、同じ量が必要なのか？

4. 相互作用に関するもの

薬の相互作用に関しては、以下のような問い合わせが寄せられていた。

- ・従来から服用している薬剤との相互作用が心配である。
- ・他の鎮痛薬と併用しても大丈夫か？
- ・甲状腺と心臓の薬も飲んでいますが、一緒に飲んで大丈夫か？
- ・従来から服用している薬剤との相互作用が心配である。

5. 適応外使用に関するもの

薬の適応外使用に関しては、以下のような問い合わせが寄せられていた。

- ・人用のNSAIDsを犬に使用してもよいのか？
- ・処方された飲み薬が犬用/猫用(飼っている動物種と異なる)だった。大丈夫なのか？
- ・犬用の痛み止めを猫に出されたが、問題ないか？

6. その他

その他、以下のような問い合わせが寄せられていた。

- ・リハビリテーション時に動物が痛がる(嫌がるので)辛い。
- ・手術や投薬をしているのに、何故痛みが続くのか？
- ・「確立した治療法はありませんが、やってみますか？」…と言われてもどう判断すれば良いか分からない。
- ・知人から「関節に良いサプリメント」を紹介されたが、服用させても良いか？
- ・減量すると関節に良いと主治医から勧められたが、食事を減らすと関節の栄養も減ってしまうのではないか？
- ・処置(投薬)をする・しないでの今後のQOLやコストのメリットが不明確のまま。
- ・高齢動物への処置(全麻含む)のリスク説明が十分納得できない(メリットのみ説明される)。